

小学校（高学年）から中学校への内容項目の連携に関する一考察

～教材『カーテンの向こう』による内容項目 D-22「よりよく生きる喜び」の指導方法～

渡邊 弘（作新学院大学人間文化学部）

1 はじめに

平成 30 年度に小学校は道徳が特別の教科となり、続いて今年度中学校が特別の教科となった。道徳教育の目的は、言うまでもなく児童・生徒の道徳性を発達させることにある。道徳性の発達とは、基本的には他律から自律の方向であるが、必ずしもコールバーグが主張するように整然と 1 段階ずつ上がるものではないと考える。すなわち、児童・生徒の中には、ある経験がきっかけとなり、思考上「飛躍」することもありうるわけであり、道徳性の発達を考える場合、個別的な発達を見取りながら、柔軟に考慮していくことが必要であろう。（この点については拙著『学校道徳教育入門』及び『これだけは知っておきたい道徳教育の基礎・基本』を参照していただきたい）

こうした児童・生徒の道徳性の発達の特徴を踏まえて、学校における道徳学習の在り方を考えた場合、とくに小学校から中学校への連携が必要不可欠であるといえる。事実文部科学省は、学習指導要領の中で、小学校低学年、中学年、高学年、そして中学校の内容項目の数や内容を、発達段階を踏まえて作成している。だが、これまで筆者が 40 年近く道徳教育に関わってきた中で、小学校と中学校との道徳学習の連携の在り方を鳥瞰したとき、一部の小中一貫教育の学校や義務教育学校は別として、必ずしも十分に実施しているとは言えない状況があるように思える。

こうした現状と今後ぜひ道徳教育上小学校と中学校との連携を密にしていってほしいという願いから、本論では一つの具体的な事例として、教材『カーテンの向こう』と内容項目「D-22 よりよく生きる喜び」を通して、とくに小学校高学年から中学校への連携の在り方について考察する。

2 教材『カーテンの向こう』と内容項目「D-22 よりよく生きる喜び」について

(1) 教材『カーテンの向こう』について

教材『カーテンの向こう』は、道徳教材を多数作成されている立石義男氏の代表的作品である。概要は次のとおりである。

イスラエルのある病院の病室で、重病人のヤコブと私という 2 人の男がベッドに横たわっていた。（このほかにニコルという重病の患者も登場する）窓際の男ヤコブは、窓の外を見ることが出来ないほかの患者たちに窓の外の風景を話すことで時間を潰していた。窓際の男が語る公園の風景や美しい花など、外の世界の様子にはほかの患者たちは心が癒やされていた。その一方で、やがて私は外の風景を独占する窓際のヤコブへの憎しみも増していった。内心私は、ヤコブの死すら願うようになってしまう。ある日、本当に窓際の男は

死んでしまう。いよいよ自分が窓際に移れると喜んだ私だが、窓の外にあったのは窓を覆う冷たいリングの壁だった。すべては、窓際のヤコブが彼らを楽しませるための作り話だったという内容である。参考までに、全文を以下に紹介しておく。

立石喜男作『カーテンの向こう』

ここはイスラエルの、とある病院の一室である。うす暗い室内には多くの重いケガや病気の患者がベッドをならべて横たわっている。

窓がたった一つしかなく、しかもそれは、ぶ厚いカーテンによっていつも閉ざされている。消毒薬のにおいが、室内の重苦しさを、一層濃いものにしていく。

患者たちは、眠っているのか起きているのか、うつろな目を天井に向け、ただ時の過ぎるのをじっと待っている。看護婦たちもあまりやってこない。まして医師の回診などめったにない。見舞いの客は今まで一人もやって来ない。何の楽しみもない。

変化のないことがこんなにつらいとは…。

そんな中での唯一の楽しみは、病室の閉ざされた窓に一番近いヤコブが、体をやっとの思いでねじまげながら、カーテンのほんの小さなすき間に顔を突っ込んで、外の様子をながめ、それをみんなに話をしてくれることだった。

きょうも、しんどそうに身をのり出して、すき間に顔を近づけ、「ほら、むこうの方からいつもの花売り娘が、バラをいっぱいかごに入れてやってくるよ。とっても可愛い娘だよ」と教える。みんなも顔をほころばせながら、

「ばらの花は何色だい。きれいだろうね」

「きょうはどんな服を着ているかね。よくなったら一緒に話をしてみたいものだ…」などとやりあう。

「ほら、今日は雨が強いから大変だ。でも子どもたちが水たまりをピチャピチャやって遊んでいるよ。子どもは元気だなア」

「ちっちゃな長靴だから、水が中にはいっちゃうのに、あとでお母さんに叱られなきゃいいが…」

「わしにも孫が二人いるが、大きくなっただろうな…」

ヤコブが外の様子を話してくれる時だけは、暗い病室に、何らかの期待と夢が入り込んで来るのであった。

私は、数年前から足の骨がとけていく奇病にとりつかれ、いくつかの病院にたらいまわしにされ、ここに運ばれたのだった。同室の患者たちも、何らかの重い病気にとりつかれた、身よりのない者ばかりである。ここでも何人かの患者が入って来て、何人かが出ていく。出ていくといっても退院するのではなく、あの世からのおむかえである。

いつのまにか、私は、ヤコブに次いで二番目に古い患者になってしまった。ここに運ばれてくる者は、ほとんど直る見込みのない病人なのだろう。

重苦しさの中で、ヤコブの話だけがせめてもの希望であった。

しかし、そのヤコブが眠ってしまうと、どんなに外の様子を知りたくても、どうしようもない。動けぬからだをジリジリしながら、ヤコブの話を待つしかない。いや、ヤコブだけが外の世界を知っているのがうらやましくもあった。しかし、みんなが行きたがっている窓ぎわのベッドは、一番古くからこの病室にいるヤコブの特権だった。

きょうは朝から、ヤコブは機嫌よく道を通る人々の様子や木々の変化、葉の緑のあざやかさなど、面白く話してくれた。みんなもヤコブの話をききながら、それぞれ故郷や家族のことを思い浮かべていた。

そのうち、私はなんとなくヤコブがにくしくなってきた。寝たきりでみんな苦しんでいるのに、ヤコブだけがなぜ外の様子を知る権利が与えられているのか。

みんなだって外を知りたい。みんなだってあこがれている。ベッドをかえてほしいと思っている者はたくさんいるのだ。しかし、ヤコブは、ガンとしてその場所を人にゆずろうとしなかった。

あるとき、こんなことがあった。特に重病だったニコルが、

「ねえヤコブさん、どうやらおむかえがやってきたようだ。きょう一日だけでいいからベッドをかえてくれないかね。少しでも外の息吹にふれて、あの世とやらへ旅立ちたいんだが…」

しかし、ヤコブは、ニコルの申し出を無視した。

翌朝、ニコルは冷たくなっていた。病室はいつになく重く沈んだ。

私だって外が見たい。ヤコブのベッドへ行きたい。

そうだ。ヤコブが死ねばいい、ヤコブが死ねば、その次に古い私とそのベッドに行けるのだ。

その日から、私は心の中でヤコブの病気が重くなることをひそかに願った。みんなといっしょにヤコブの話に笑っているときも、心の奥底ではニコリともしない自分がいた。

その年の冬は、例年になく寒かった。病室もしんしんと冷え込んだ。どうやらヤコブの様子がおかしい。なんとなく乾いたせきをしている。みんなは、いつものように、外の様子を聞きたがった。しかし、きょうのヤコブは話したがらなかった。

その晩、ヤコブは苦しい息の下で、やっとの思いで身をのり出し、しぼり出すように外の様子をみんなに伝えた。

「あしたは、よい天気だよ。…星がいっぱい出ている…きつと…いい日になる…」そこまで言うと、ガックリ頭を落とし、そのまま一言もなかった。看護婦がやってきた。ヤコブはすでに息が絶えていた。

みんなが悲しんだ。私もみんなと一緒に悲しい顔をしていた。けれど、どこかで笑っている自分がいた。

これで外の様子をひとりじめできる。みんなにしらせてやるものか。オレひとりだけ楽しむんだ。ニンマリ笑いがこみあげてくる。

いよいよ窓際のベッドへ移ることになった。昨晚は気持ちが高まって眠れなかった。看護婦にだきかかえられてカーテンのそこから見える外の景色、これこそ自分が求めているものだった。期待に胸がうちふるえた。

そこから見えたもの。

カーテンの向こうは、なんと冷たいレンガの壁であった。

(2) 内容項目 D-22「よりよく生きる喜び」について

今回の学習指導要領の改訂に伴い、道徳の内容項目においても小学校および中学校においてまとめられたり、分離されたり、新たに加えられたりなどいくつか変更があった。その一つが、小学校高学年と中学校に新しく加えられた内容項目 D-22「よりよく生きる喜び」である。具体的な内容については、以下のとおりである。

[第5学年及び第6学年]

よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる
こと。

[中学校]

人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解
し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。(以上傍点引用者)

この新しい内容項目に関しては、発達段階を考慮し、また小学校から中学校への道德性の発達における系統性をとくに意識して指導することが求められている。両者の内容は同じく「よりよく生きる喜び」であるが、理解する内容として、その観点あるいは意味合いが異なっていることがわかる。すなわち、小学校高学年では「人間の強さと気高さ」についての理解が優先されているのに対して、中学校では人間の「弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があること」についての理解が優先されているということである。

事実、『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説特別の教科道德』および『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説特別の教科道德』における指導の要点では、次のように説明している。

①『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説特別の教科道德』

「様々な機会に、身の回りにある人間が持っている強さや気高さに気付かせるとともに、そのよさや可能性を十分に理解できるようにすることが大切である。（中略）人間の強さや気高さを理解させることで、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方につなげるようにすることが求められる。」

②『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説特別の教科道德』

「中学校の段階では、入学して間もない時期には、人間が内に弱さや醜さをもつと同時に強さや気高さを併せてもつことを理解することができるようになってくる。なかなか自分に自信が持てずに、劣等感にさいなまれたり、人を妬み、恨み、うらやましく思ったりすることもある。（中略）生徒が、自分の弱さを強さに、醜さを気高さに変えられるという確かな自信をもち自己肯定でき、よりよく生きる喜びを見いだせるような指導が求められる。」（以上傍点引用者）

これらの内容からも、同じ「よりよく生きる喜び」という内容項目ではあるが、小学校高学年では「人間の強さと気高さ」が、中学校では「人間の弱さや醜さそしてその克服」が課題となっていることがわかる。

では、以上の内容項目の特徴を踏まえて、先に紹介した教材『カーテンの向こう』という共通の教材を用いて、観点の違いを意識しながら、どのような授業の展開が考えられるかを次に吟味したい。

3 教材『カーテンの向こう』による内容項目 D-22「よりよく生きる喜び」の指導方法

前節で述べたように、小学校高学年では「人間の強さと気高さ」に主眼を置き、中学校では「人間の弱さや醜さそしてその克服」に主眼に置いているが、両者とも内容項目 D-2「よりよく生きる喜び」についての理解を深めていくことは共通している。では、観点の違いをどのような方法で行えば、それぞれの理解が深められることになるのだろうか。筆者はその点について、とくに登場する人物を変えることによって可能となると考えた。具体的には、小学校高学年では「ヤコブ」を通して学習方法を組み立て、一方中学校では「私」に焦点を当てて展開を考えていくということである。では次に具体的にみていくことにしよう。

(1) 小学校高学年の場合～「ヤコブ」を中心とした道徳学習方法～

小学校高学年の場合は、「ヤコブ」を中心に道徳学習を構成していくことにより、人間の強さや気高さが考えられるであろう。暗い病室の中で何も楽しみのない人々のために、自身も重病であるにもかかわらず、あえてうそをつき、外の楽しい様子を話して病室の雰囲気を明るくしようとした点は、人間の強さや気高さ、あるいは崇高さを表しているといえる。では、どのような展開が具体的に考えられるだろうか。次に一つの展開の事例を紹介したい。

第6学年 道徳科学習指導案

1. 主題名 生きる喜びとは D-22 よりよく生きる喜び
2. 教材名 『カーテンの向こう』
3. 本時のねらい

ヤコブの生き方について話し合う活動を通して、人間の強さや気高さを感じ取り、人間としてよりよく生きようとする心情を育てる。

4. 学習指導過程

	学習活動 (主な発問と児童の反応) ◎中心発問	指導上の留意点 ★評価
導入	1 生きる喜びについて話し合う。 ○ どんな時に生きる喜びを感じますか。	○教師が生きる喜びを感じる場面を例示することで、具体的に考えやすくする。
	「生きる喜び」を感じられる生き方とは、どんな生き方なのだろう。	
展開	2. 教材『カーテンの向こう』を読み、話し合う。 ○ ヤコブがカーテンのむこうの様子を、病室の患者に話したのは、どんな気持ちからだろう。 ・病室の患者に周りの様子を伝えたい。 ・みんなが楽しみにしているので、話したい。 ・少しでも他の患者に生きる希望を与えたい。 ◎ 死が迫っているのに、ヤコブ自身のどんな思いが、外の様子を伝えさせたのだろう。 ・自分で決めたことは最後までやり遂げたい。	○本時のねらいに迫ることができるよう、ヤコブに焦点を当てて朗読を聞くことを助言する。 ○治る見込みがないのに、病室の患者に外の様子を話すヤコブの状況を押さえることで、ヤコブの生きる喜びを考えられるようにする。 ○「きっと・・・いい日になる」という言葉を取り上げ、ヤコブが他の患者に生きる希望を与えようとしていることに気付けるようにするとともに、ヤコブのどんな思いがこの行動に結びつくのかを考えさせたい。 ○よりよく生きようとするヤコブの強さや気高さを感じ取る

	<ul style="list-style-type: none"> ・他の患者にも生きる希望を与えたい。 ・最後まで自分らしく生きていたい。 	<p>ことができるよう、図などを活用する。</p>
	<p>3. 自分とヤコブを比較して話し合う。</p> <p>○ヤコブと比べながら自分の「生きる喜び」を見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も他の人に喜んでもらえると、生きていて良かったと思うことがある。 ・ヤコブに比べれば自分の生きる喜びは小さいが、夢を実現しようとしている。 ・ヤコブのように「生きる喜び」をもっと大きくすることはできないだろうか。 	<p>○ヤコブの「生きる喜び」をもとに自分の「生きる喜び」を考えることができるワークシートを用意することで、自分の生き方について考えることができるようにする。</p> <p>★人間としてよりよく生きることについて、多面的・多角的に考えようとしている（発言・ワークシート 等）</p> <p>○「生きる喜び」を考えることができた児童には、ヤコブの生き方とつなげてよりよく生きることも考えるよう助言する。</p>
終末	<p>4. 「生きる喜び」をふくらませるために、どのようなことが大切かをワークシートに書く。</p>	<p>○よりよく生きることを考えられるよう、生きる喜びをふくらませるためには、どうしたらいいかを問い、考える時間を確保する。</p>

(2) 中学校の場合～「私」を中心とした道徳学習方法～

中学校の場合は、「私」を中心に道徳学習を構成していくことにより、人間の弱さや醜さそしてその克服が考えられるであろう。ヤコブが外の楽しい様子を話しているうちに彼が

窓際にいることがうらやましく思い、やがてヤコブが死ねばよいとまで考え、最終的に自分が念願叶って窓際に来た時、そこがレンガの壁であったと知った「私」は、ある意味で人間の醜さや弱さを詩膺懲しているといえる。この「私」の思いを中心にいかにそれを克服していくことが大切かを考えさせていくことが重要であろう。では、どのような展開が具体的に考えられるだろうか。次に一つの展開の事例を紹介したい。

中学1年生 道徳学習指導案

1. 主題名 心の弱さを乗り越えて 内容項目 D-22 よりよく生きる喜び
2. 教材名 『カーテンの向こう』
3. 本時のねらい 人には、心の弱さや醜さがあるが、それらを克服する強さ気高さがあることに気付き、人として生きる喜びを見出そうとする態度を育てる。
4. 学習指導過程

学習活動及び発問		教師の支援及び指導上の留意点
導入	<p>1. これまでに、人を羨ましいと思ったり何であの人がと妬んだりした経験を想起させる。</p> <p>○ 今までに、友達やまわりの人を羨んだり妬んだりした経験はありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達をスポーツが得意でいいなと思った ・勉強ができていいなと思った。 ・友達がいっぱいいていいなと思った。 <p>○ アンケートの結果を知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ面 ・学習面 ・人間関係面など 	<p>○ 人を羨んだり妬んだりすることは、人間であれば誰でも経験することで決して自分を否定することがないように留意する。</p> <p>○ 事前のアンケートなどに人を羨んだり妬んだりした経験を想起させ、メモさせておく。</p> <p>○ マイナスの感情なので、無理に発表はさせない。発表がなかった時のために、アンケートをまとめておき、結果を提示する。</p>
展開	<p>2. 『カーテンの向こう』を読んで話し合う。</p> <p>○ 感想を述べ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院の患者について ・私について ・ヤコブについて <p>① 私は、ヤコブの話をどんなことを思いながら聞いていたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外の様子を聞いてなぐさめられる ・病気や今の状況を忘れられる ・生きる意欲をもつことができる。 	<p>○ 場面状況をつかみやすくするために、顔絵や場面絵を掲示する。</p> <p>○ 最後の真実を知って、どんな思いをもったかなど、感想を発表させる。</p> <p>○ 「私」の思いを中心に共感的に考えさせる。</p> <p>○ 初めは、ヤコブの話を楽しく聞いていたが、徐々に羨ましく思い、妬みの気持ちが</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤコブは外を見られていいな ・ヤコブだけ見られるなんて憎らしい <p>② 私は、ニコルの願いを断ったヤコブをどのように思っただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんて思いやりのない人間だ ・最後の願いを断るなんてひどい人間だ ・憎む気持ちが大きくなる ・ヤコブが死ねば自分が特権を得られる ・早く死ねばいい <p>③ 私は、カーテンの向こうの真実を知って、ヤコブに対してどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤコブは、生きる力を与えてくれていた ・みんなから恨まれても隠し通したヤコブは何て強いのだろう ・自分は、ヤコブに対してなんてことをしてしまったのだろう ・ヤコブの心は、何て気高いのだろう。 <p>3. これまでの自分について振り返る。</p> <p>○ 自分の心の弱さを見つめ、本時の学習から学んだことを考えよう。</p>	<p>増している様子に気付かせる。</p> <p>○ ヤコブがニコルの最後の願いを断ったことをきっかけに私がヤコブをますます妬み、心が醜くなっていく様子を共感的に捉えさせる。</p> <p>○ 真実を知って、ショックを受けた私のヤコブに対する思いを捉えさせ、隠し通して、生きる力を与え続けたヤコブの心の強さや気高さに気付かせる。</p> <p>○ 補助発問として、ヤコブも初めて窓際のベッドになったときどんな思いであったかを考えさせる。ヤコブも私と同じような思いになり、その気持ちを乗り越え、人の心の気高さ強さを感じ取らせたい。</p> <p>○ 導入で想起させた自分の心の弱さをどのように乗り越えたり心の折り合いを付けたりしているのか、自分を見つめさせる。</p>
終 末	<p>4. 教師の説話を聞く。</p>	<p>○ 心の強さや気高さによって人間は、よりよく生きることができ、喜びを感じることができるという具体的な例を挙げて、説話をする。</p>

これらの指導案の展開は、あくまで一つの事例として考えていただきたい。重要なことは、内容項目と教材が共通している中で、このように視点を当てる人物によって展開を変えることが可能であること、そしてそれによって「D-22 よりよく生きる喜び」の内容項目につ

いて系統的に児童・生徒が考えを深めていけるということである。こうした力のある作品でしかも小学生でも中学生でも視点を変えて道徳的価値についての理解を深めていくことが今後可能であり、小学校と中学校で共同研究していく場合の一つの手がかりになるのではないかと考える。

付記

小学校の指導案作成に当たり、とちぎ道徳教育実践学会会員で宇都宮市立清原中央小学校の生田敦校長の協力を得て作成した。また、中学校の指導案作成に当たり、同じくとちぎ道徳教育実践学会会員で宇都宮市立陽東小学校小椋智子教諭の協力を得て作成した。お二人の教員には、お忙しいところご助言などもいただき、ご協力くださり心より感謝したい。

参考文献

- 1 渡邊 弘『学校道徳教育入門』東洋館出版社、2007 年。
- 2 渡邊 弘『これだけは知っておきたい道徳教育の基礎・基本』川島書店、2012 年。
- 3 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説特別の教科道徳』文部科学省、2018 年。
- 4 『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説特別の教科道徳』文部科学省、2018 年。